

日常に散りばめられた、美しい世界を見つけてほしい――

自身が手掛けた写真詩集「統一枚の写真」を、かつての学び舎である川根小学校に寄贈した柴田さん。日常の中に存在する感動を見つけ、写真や言葉にする大切さを、多くの人に伝えていきます。

【子育てと写真】

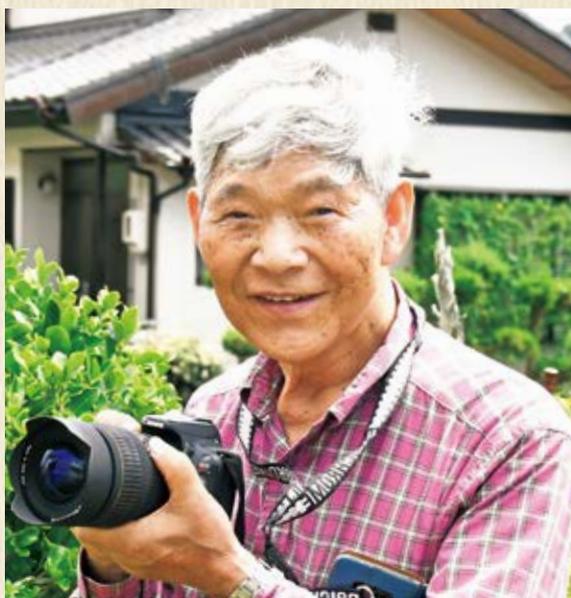
旧川根町で生まれ育った柴田さんは、進学・就職を機に地元を離れました。結婚して父親となったことをきっかけに、写真を撮ることが好きになったと話します。

「50年ほど前のことです。大学を卒業後、妻と出会い結婚しました。3人の子を授かってからは、夫婦で子育てに奮闘する毎日でした。私は、愛するわが子の成長記録にと、フィルムカメラを購入。あどけない表情ではしゃぐ子どもたちの姿を、写真に収めるといふ喜びを知り、何気ない日常こそ素晴らしいらしく、美しい



ものだと思感しました。これは、カメラ越しに世界を見たから分かったことでしょうかね。そこから、見る見るうちに写真の魅力に取りつかれていったことを、今でもよく覚えていています」

ました。ある日、行きつけの写真屋が、コンテストへの応募を持ち掛けてきました。周りからの後押しもあり、思い切ってそれまで撮った写真を出品してみると、驚くことに数々のコンクールで入賞した



旧川根町出身の写真家
柴田秀夫さん(静岡市葵区)

【写真家としての躍進】

柴田さんは、撮りためた家族との思い出を見返しながら、写真コンテストへの応募を思い立ちました。

「写真を撮っては現像し、家族と思い出を共有してい

【古里との縁に感謝】

柴田さんは、地元を離れて暮らす現在も、川根町に足しげく通い、写真家として活動しています。

「知人の紹介で、今年は母校の川根小とご縁ができました。2月に開いた講演会では、児童とたくさん交流することができましたよ。そこで感謝の気持ちを込めて、9月にはこれまでの写真に詩を付けて制作した写真詩集を寄贈させていただきました。児童にはこの写真詩集のように、日々の暮らしの中にある感動を見つけ、大切にしてほしいですね。また来年度からは、川根小のクラブ活動にも携わる予定です。雨に濡れたクモの糸とか、川辺を羽ばたく鳥とか、何でもいいんです。子どもたちが素直な気持ちでシャッターを切り、地元と写真をもっと好きになってくれたら、これほど写真家冥利に尽きることはありません」

いつまでも、純粋な好奇心と感性を大切に柴田さん。カメラを片手に、今日も日常で見つけた感動を切り取っています。



写真詩集「統一枚の写真」を川根小学校の児童に寄贈する柴田さん

Shimadajin File #106

島田 Story 人